

## 平成 15 年度 宮崎大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

## 工・教育文化・農学部 平成 15 年 2 月 25 日

- 工学部は, [1] ~ [4] 必答, [5] ~ [7] から 1 題選択. 数 II・III・B(120 分)
- 教育文化 (中学 [理系], 生活文化 [生活環境コース]) 学部は, [2], [8] 必答, [5] ~ [7] から 1 題選択. 数 II・B (90 分)
- 教育文化 (初等教育コース, 中学 [文系], 障害児コース) 学部・農 (食料生産科学・生物環境科学・地域農業システム・獣医) 学部は, [2], [9] 必答, [10] ~ [12] から 1 題選択. 数 II・A (90 分)

[1]  $x, y$  を実数とするとき, 次の各問に答えよ.

(1) 等式  $\sin^2 x + \sin^2 y + \sin^2(x + y) = 2 - \cos x \cos y \cos(x + y)$  が成り立つことを示せ.

(2)  $x > 0, y > 0, x + y < \pi$  とする.  $\sin^2 x + \sin^2 y + \sin^2(x + y) > 2$  であるとき, 不等式  $x + y > \frac{\pi}{2}$  が成り立つことを示せ.

[2] 座標平面上で,  $x$  軸までの距離と直線  $y = \frac{3}{4}x$  までの距離の和が 1 以下である点全体からなる領域を  $D$  とする. このとき, 次の各問に答えよ.

(1) 領域  $D$  を図示せよ.

(2) 点  $(x, y)$  が領域  $D$  上を動くとき,  $x + y$  が最大となる点の座標を求めよ.

[3] 座標平面上で,  $t$  を媒介変数として表される曲線  $C: x = a \cos t, y = b \sin t$  ( $a > 0, b > 0, 0 \leq t \leq 2\pi$ ) について, 次の各問に答えよ.

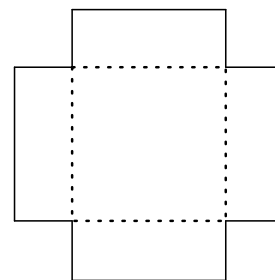
(1)  $x, y$  の満たす関係式を求めよ.

(2)  $0 \leq x \leq a \cos \theta$  ( $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$ ) において, 曲線  $C, y$  軸および直線  $x = a \cos \theta$  によって囲まれる部分の面積  $S(\theta)$  を求めよ.

(3) 極限值  $\lim_{\theta \rightarrow \frac{\pi}{2}-0} \frac{S(\theta)}{\frac{\pi}{2} - \theta}$  を求めよ. ただし,  $\theta \rightarrow \frac{\pi}{2} - 0$  は,  $\theta$  が  $\frac{\pi}{2}$  より小さい値をとりながら  $\frac{\pi}{2}$  に限りなく近づくことを表す.

- 4 関数  $f(x) = ae^{2x}$  ( $a$  は定数) について, 曲線  $y = f(x)$  上の点  $(b, f(b))$  における接線が  $y = x$  であるとき, 次の各問に答えよ. ただし,  $e$  は自然対数の底で,  $e = 2.718\cdots$  である.
- (1)  $a$  と  $b$  の値を求めよ.
  - (2)  $g(x) = f(x) - x$  とおくと,  $0 \leq x \leq 1$  における  $g(x)$  の最大値と最小値を求めよ.
  - (3)  $y = f(x)$  の逆関数を  $y = f^{-1}(x)$  と表す. このとき, 曲線  $y = f(x)$ ,  $y = f^{-1}(x)$ ,  $x$  軸および  $y$  軸によって囲まれる部分の面積を求めよ.
- 5 四面体  $OABC$  において,  $OA = OC$  であるとする. さらに,  $BC$  を  $1:2$  に内分する点を  $D$ ,  $AD$  を  $3:1$  に内分する点を  $E$  とするとき,  $OE \perp AC$  であるとする.  $\vec{OA} = \vec{a}$ ,  $\vec{OB} = \vec{b}$ ,  $\vec{OC} = \vec{c}$ ,  $\vec{OE} = \vec{e}$  とおくと, 次の各問に答えよ.
- (1)  $\vec{e}$  を  $\vec{a}$ ,  $\vec{b}$ ,  $\vec{c}$  を用いて表せ.
  - (2)  $\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c}$  であることを示せ. ただし, 記号  $\vec{x} \cdot \vec{y}$  はベクトル  $\vec{x}$  と  $\vec{y}$  の内積を表す.
  - (3)  $OA : OB = 2 : 1$ ,  $OE \perp BC$  であるとき,  $\angle AOC$  を求めよ.
- 6 点  $O$  を原点とする複素数平面上で, 2つの複素数  $\alpha, \beta$  を表す点をそれぞれ  $A, B$  とする.  $\alpha, \beta$  が  $\left(\frac{\beta}{\alpha}\right)^2 - \frac{\beta}{\alpha} + 1 = 0$  を満たすとき, 次の各問に答えよ.
- (1)  $\triangle OAB$  は正三角形であることを示せ.
  - (2) 複素数  $1+i$  を表す点を  $C$  とする. 正三角形  $OAB$  の1辺の長さが1であり,  $\triangle OAB$  が直線  $OC$  に関して対称であるとき, 複素数  $\alpha, \beta$  を求めよ. ただし,  $\alpha$  の実部は  $\beta$  の実部より大きく, とともに正とする.
- 7 2個のさいころを同時に1回投げる. 出る目の和を5で割った余りを  $X$ , 出る目の積を5で割った余りを  $Y$  とする. このとき, 次の各問に答えよ.
- (1)  $Y \geq 1$  である確率を求めよ.
  - (2)  $X = 2$  または  $Y = 2$  である確率を求めよ.
  - (3)  $X = 2$  である条件のもとで  $Y = 2$  である確率を求めよ.

- 8 1 辺の長さが 24cm の正方形の厚紙の 4 すみから合同な正方形を切りとり，その残りの部分 (右図) を点線に沿って折り曲げてふたのない箱 A を作る．同様に 1 辺の長さが 36cm の正方形の厚紙からふたのない箱 B を作る．ここで，箱 A, B の底面が合同な正方形となるように作るものとする．このとき，2 つの箱 A, B の容積の和の最大値を求めよ．ただし，紙の厚みの影響は考えないものとする．



- 9 次の各問に答えよ．

- (1) 2 つの角  $\alpha, \beta$  について，等式

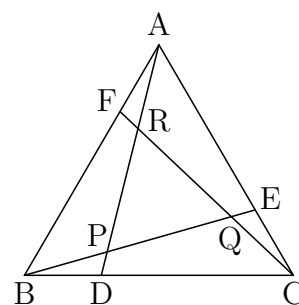
$$\sin^2 \alpha + \sin^2 \beta + \sin^2(\alpha + \beta) + 2 \cos \alpha \cos \beta \cos(\alpha + \beta) = 2$$

が成り立つことを示せ．

- 10 実数  $a, b, c$  について  $f(x) = ax^2 + bx + c$  とおく． $f(0), f(1), f(2)$  がいずれも整数であるとき，次の問に答えよ．

- (1)  $2a, 2b$  はともに整数であることを示せ．  
 (2) すべての整数  $n$  について， $f(n)$  は整数であることを示せ．

- 11 右図の正三角形 ABC において，辺 BC, CA, AB を  $m : n$  ( $0 < m < n$ ) に内分する点をそれぞれ D, E, F とする．また，線分 AD と BE の交点を P，線分 BE と CF の交点を Q，線分 CF と AD の交点を R とする．このとき，次の各問に答えよ．



- (1)  $\triangle PQR$  は正三角形であることを示せ．  
 (2)  $AR : AP = m : n$  であることを示せ．

- 12  $a_1 = \frac{q}{p}$  ( $p > q > 0$ )， $a_{n+1} = \frac{1}{2 - a_n}$  ( $n = 1, 2, \dots$ ) で定義された数列  $\{a_n\}$  について，次の各問に答えよ．

- (1)  $a_2, a_3, a_4$  を求めよ．  
 (2) 一般項  $a_n$  を推定し， $n, p, q$  を用いて表せ．さらに，その推定が正しいことを数学的帰納法を用いて証明せよ．

## 正解

$$\begin{aligned}
 \boxed{1} \quad (1) \quad & \sin^2 x + \sin^2 y + \sin^2(x+y) \\
 &= \frac{1}{2}(1 - \cos 2x) + \frac{1}{2}(1 - \cos 2y) + 1 - \cos^2(x+y) \\
 &= 2 - \frac{1}{2}(\cos 2x + \cos 2y) - \cos^2(x+y) \\
 &= 2 - \cos(x+y) \cos(x-y) - \cos^2(x+y) \\
 &= 2 - \{\cos(x-y) + \cos(x+y)\} \cos(x+y) \\
 &= 2 - 2 \cos x \cos y \cos(x+y)
 \end{aligned}$$

(2)  $\sin^2 x + \sin^2 y + \sin^2(x+y) > 2$  のとき, (1) の結果から

$$2 - 2 \cos x \cos y \cos(x+y) > 2 \quad \text{ゆえに} \quad \cos x \cos y \cos(x+y) < 0 \quad \cdots (*)$$

$x > 0, y > 0, x+y < \pi$  のとき,  $x+y \leq \frac{\pi}{2}$  と仮定すると

$$0 < x < \frac{\pi}{2}, \quad 0 < y < \frac{\pi}{2}, \quad 0 < x+y \leq \frac{\pi}{2}$$

したがって  $\cos x > 0, \cos y > 0, \cos(x+y) \geq 0$

これは, (\*) に矛盾する. よって,  $x+y > \frac{\pi}{2}$  が成り立つ.

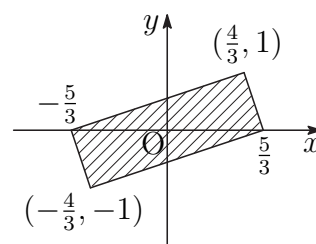
$\boxed{2}$  (1) 領域  $D$  内の点  $(x, y)$  について, 条件から, 次式が成り立つ.

$$|y| + \frac{|3x - 4y|}{5} \leq 1$$

ここで,  $y = s, 3x - 4y = 5t$  とおくと

$$(x, y) = s \left( \frac{4}{3}, 1 \right) + t \left( \frac{5}{3}, 0 \right), \quad |s| + |t| \leq 1$$

$D$  は 4 点  $(\frac{4}{3}, 1), (\frac{5}{3}, 0), (-\frac{4}{3}, -1), (-\frac{5}{3}, 0)$  を頂点する平行四辺形の周およびその内部であり, 右の図の斜線部分.



$$(2) \quad x + y = \left( \frac{4}{3}s + \frac{5}{3}t \right) + s = \frac{7}{3}s + \frac{5}{3}t$$

上式から,  $x+y$  が最大となるとき,  $s \geq 0, t \geq 0$  であるから  $(s+t \leq 1)$

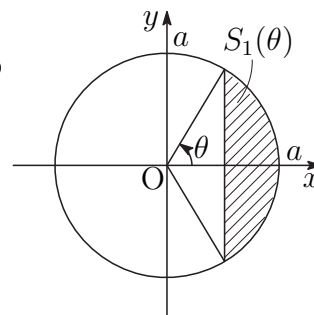
$$s = 1, t = 0 \quad \text{すなわち} \quad (x, y) = \left( \frac{4}{3}, 1 \right) \quad \text{のとき最大値} \quad \frac{7}{3}$$

3 (1)  $x = a \cos t, y = b \sin t$  より  $\cos t = \frac{x}{a}, \sin t = \frac{y}{b}$

これを  $\cos^2 t + \sin^2 t = 1$  に代入して  $\frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$

(2)  $a > 0, 0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  とする.  $a \cos \theta \leq x \leq a$  において, 円  $x^2 + y^2 = a^2$ , 直線  $x = a \cos \theta$  によって囲まれる部分の面積を  $S_1(\theta)$  とすると

$$\begin{aligned} S_1(\theta) &= \frac{1}{2} a^2 \cdot 2\theta - \frac{1}{2} a^2 \sin 2\theta \\ &= a^2 \left( \theta - \frac{1}{2} \sin 2\theta \right) \end{aligned}$$



$0 \leq x \leq a \cos \theta$  において, 円  $x^2 + y^2 = a^2$ ,  $y$  軸および  $x = a \cos \theta$  によって, 囲まれる部分の面積を  $S_2(\theta)$  とすると

$$S_2(\theta) = \frac{1}{2} \pi a^2 - S_1(\theta) = a^2 \left\{ \left( \frac{\pi}{2} - \theta \right) + \frac{1}{2} \sin 2\theta \right\}$$

$C$  は円  $x^2 + y^2 = a^2$  を  $x$  軸をもとに  $y$  軸方向に  $\frac{b}{a}$  倍だけ拡大したものであるから

$$S(\theta) = S_2(\theta) \times \frac{b}{a} = ab \left\{ \left( \frac{\pi}{2} - \theta \right) + \frac{1}{2} \sin 2\theta \right\}$$

(3) (2) の結果から  $\frac{S(\theta)}{\frac{\pi}{2} - \theta} = ab \left\{ 1 + \frac{\sin 2 \left( \frac{\pi}{2} - \theta \right)}{2 \left( \frac{\pi}{2} - \theta \right)} \right\}$

よって  $\lim_{\theta \rightarrow \frac{\pi}{2} - 0} \frac{S(\theta)}{\frac{\pi}{2} - \theta} = 2ab$

$$\boxed{4} \quad (1) \quad f(x) = ae^{2x}, \quad f'(x) = 2ae^{2x}$$

曲線  $y = f(x)$  の点  $(b, f(b))$  における接線の方程式が  $y = x$  であるから

$$f(b) = b, \quad f'(b) = 1 \quad \text{ゆえに} \quad ae^{2b} = b, \quad 2ae^{2b} = 1$$

$$\text{これを解いて} \quad a = \frac{1}{2e}, \quad b = \frac{1}{2}$$

$$(2) \quad (1) \text{の結果から} \quad g(x) = f(x) - x = \frac{1}{2}e^{2x-1} - x$$

$$\text{これを微分すると} \quad g'(x) = e^{2x-1} - 1$$

したがって,  $g(x)$  の増減表は次のようになる.

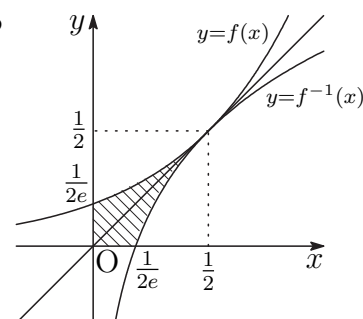
$x$	0	...	$\frac{1}{2}$	...	1
$g'(x)$		-	0	+	
$g(x)$	$\frac{1}{2e}$	$\searrow$	0	$\nearrow$	$\frac{e}{2} - 1$

$$\text{ここで} \quad g(1) - g(0) = \frac{e}{2} - 1 - \frac{1}{2e} = \frac{1}{2} \left( e - \frac{5}{2} \right) + \frac{1}{2} \left( \frac{1}{2} - \frac{1}{e} \right) > 0$$

$$\text{よって} \quad x = 1 \text{ のとき最大値} \frac{e}{2} - 1, \quad x = \frac{1}{2} \text{ のとき最小値} 0$$

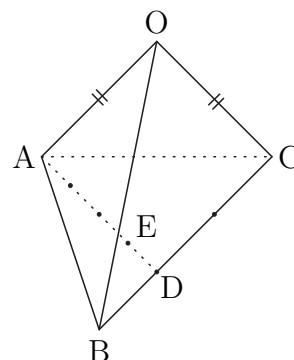
(3) 求める面積を  $S$  とすると, 図の斜線部分であるから

$$\begin{aligned} \frac{S}{2} &= \int_0^{\frac{1}{2}} \{f(x) - x\} dx = \int_0^{\frac{1}{2}} g(x) dx \\ &= \int_0^{\frac{1}{2}} \left( \frac{1}{2}e^{2x-1} - x \right) dx \\ &= \left[ \frac{1}{4}e^{2x-1} - \frac{x^2}{2} \right]_0^{\frac{1}{2}} = \frac{1}{8} - \frac{1}{4e} \end{aligned}$$



$$\text{よって} \quad S = \frac{1}{4} - \frac{1}{2e}$$

$$\begin{aligned}
 \boxed{5} \quad (1) \quad \vec{e} &= \frac{1}{4}(\vec{OA} + 3\vec{OD}) \\
 &= \frac{1}{4} \left\{ \vec{a} + 3 \times \frac{2\vec{OB} + \vec{OC}}{3} \right\} \\
 &= \frac{1}{4}(\vec{a} + 2\vec{b} + \vec{c})
 \end{aligned}$$



(2)  $OE \perp AC$  より,  $\vec{e} \cdot \vec{AC} = 0$  であるから

$$\begin{aligned}
 4\vec{e} \cdot \vec{AC} &= (\vec{a} + 2\vec{b} + \vec{c}) \cdot (\vec{c} - \vec{a}) \\
 &= |\vec{c}|^2 - |\vec{a}|^2 + 2(\vec{b} \cdot \vec{c} - \vec{a} \cdot \vec{b}) = 0
 \end{aligned}$$

OA = OC より,  $|\vec{a}| = |\vec{c}|$  を上式に代入すると

$$2(\vec{b} \cdot \vec{c} - \vec{a} \cdot \vec{b}) = 0 \quad \text{よって} \quad \vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c}$$

(3)  $OE \perp BC$  より,  $\vec{e} \cdot \vec{BC} = 0$  であるから

$$\begin{aligned}
 4\vec{e} \cdot \vec{BC} &= (\vec{a} + 2\vec{b} + \vec{c}) \cdot (\vec{c} - \vec{b}) \\
 &= (\vec{b} \cdot \vec{c} - \vec{a} \cdot \vec{b}) + \vec{a} \cdot \vec{c} - 2|\vec{b}|^2 + |\vec{c}|^2 = 0 \quad \dots (*)
 \end{aligned}$$

OA = OC, OA : OB = 2 : 1 より,  $|\vec{a}| : |\vec{b}| : |\vec{c}| = 2 : 1 : 2$  であるから

$$|\vec{b}|^2 = \frac{1}{4}|\vec{a}||\vec{c}|, \quad |\vec{c}|^2 = |\vec{a}||\vec{c}|$$

上式および (1) の結果を (\*) に代入すると

$$\vec{a} \cdot \vec{c} - \frac{1}{2}|\vec{a}||\vec{c}| + |\vec{a}||\vec{c}| = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{\vec{a} \cdot \vec{c}}{|\vec{a}||\vec{c}|} = -\frac{1}{2}$$

$\vec{a}$  と  $\vec{c}$  のなす角を  $\theta$  とすると

$$\cos \theta = -\frac{1}{2} \quad \text{すなわち} \quad \theta = \frac{2}{3}\pi$$

よって  $\angle AOC = \frac{2}{3}\pi$

6 (1)  $\left(\frac{\beta}{\alpha}\right)^2 - \frac{\beta}{\alpha} + 1 = 0$  より

$$\frac{\beta}{\alpha} = \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2} = \cos \frac{\pi}{3} \pm i \sin \frac{\pi}{3}$$

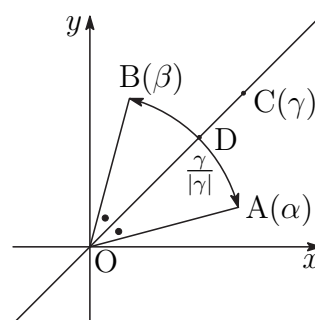
したがって  $\left|\frac{\beta}{\alpha}\right| = 1$  ゆえに  $|\beta| = |\alpha|$ ,  $\arg\left(\frac{\beta}{\alpha}\right) = \pm \frac{\pi}{3}$

よって,  $OA = OB$ ,  $\angle AOB = \frac{\pi}{3}$  より,  $\triangle OAB$  は正三角形である.

(2) 点 D を  $\frac{\gamma}{|\gamma|}$  とすると

$$\frac{\gamma}{|\gamma|} = \frac{1}{\sqrt{2}}(1+i)$$

右の図から 2 点 A, B は, 点 D をそれぞれ  
原点 O を中心に  $-\frac{\pi}{6}$ ,  $\frac{\pi}{6}$  だけ回転させた  
ものであるから



$$\begin{aligned} \alpha &= \frac{1}{\sqrt{2}}(1+i) \left( \cos \frac{\pi}{6} - i \sin \frac{\pi}{6} \right) \\ &= \frac{1}{\sqrt{2}}(1+i) \left( \frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) = \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4} + \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{4}i \\ \beta &= \frac{1}{\sqrt{2}}(1+i) \left( \cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6} \right) \\ &= \frac{1}{\sqrt{2}}(1+i) \left( \frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) = \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{4} + \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4}i \end{aligned}$$

解説  $\alpha, \beta$  は

$$\begin{aligned} \alpha &= \cos \frac{1}{12}\pi + i \sin \frac{1}{12}\pi = \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4} + \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{4}i \\ \beta &= \cos \frac{5}{12}\pi + i \sin \frac{5}{12}\pi = \frac{\sqrt{6} - \sqrt{2}}{4} + \frac{\sqrt{6} + \sqrt{2}}{4}i \end{aligned}$$



7 (1) 求める確率は

$$\begin{aligned} P(Y \geq 1) &= 1 - P(Y = 0) \\ &= 1 - \frac{11}{6^2} = \frac{25}{36} \end{aligned}$$

X(和を5で割った余り)

	1	2	3	4	5	6
1	2	3	4	0	1	2
2	3	4	0	1	2	3
3	4	0	1	2	3	4
4	0	1	2	3	4	0
5	1	2	3	4	0	1
6	2	3	4	0	1	2

Y(積を5で割った余り)

	1	2	3	4	5	6
1	1	2	3	4	0	1
2	2	4	1	3	0	2
3	3	1	4	2	0	3
4	4	3	2	1	0	4
5	0	0	0	0	0	0
6	1	2	3	4	0	1

(2)  $X = 2, Y = 2$  となる事象をそれぞれ  $A, B$  とすると, 上の表から

$$\begin{aligned} P(A \cup B) &= P(A) + P(B) - P(A \cap B) \\ &= \frac{8}{36} + \frac{6}{36} - \frac{2}{36} = \frac{12}{36} = \frac{1}{3} \end{aligned}$$

$$(3) P_A(B) = \frac{P(A \cap B)}{P(A)} = \frac{2}{36} \div \frac{8}{36} = \frac{1}{4}$$

8 箱 A, B の底面が合同な正方形であるから, その一辺を  $2x$  cm とすると, 箱 A, B の高さはそれぞれ  $12 - x$  cm,  $18 - x$  cm であるから

$$2x > 0, 12 - x > 0, 18 - x > 0 \quad \text{すなわち} \quad 0 < x < 12$$

2つの箱の容積の和を  $V$  とすると

$$\begin{aligned} V &= (2x)^2(12 - x) + (2x)^2(18 - x) \\ &= 8x^2(15 - x), \\ V' &= 24x(10 - x) \end{aligned}$$

したがって,  $V$  の増減表は次のようになる.

$x$	(0)	...	10	...	(12)
$V'$		+	0	-	
$V$		↗	4000	↘	

よって,  $x = 10$  のとき, 最大値 4000 (cm<sup>3</sup>)

$$\begin{aligned}
\boxed{9} \quad (1) \quad & \sin^2 \alpha + \sin^2 \beta + \sin^2(\alpha + \beta) \\
&= \frac{1}{2}(1 - \cos 2\alpha) + \frac{1}{2}(1 - \cos 2\beta) + 1 - \cos^2(\alpha + \beta) \\
&= 2 - \frac{1}{2}(\cos 2\alpha + \cos 2\beta) - \cos^2(\alpha + \beta) \\
&= 2 - \cos(\alpha + \beta) \cos(\alpha - \beta) - \cos^2(\alpha + \beta) \\
&= 2 - \{\cos(\alpha - \beta) + \cos(\alpha + \beta)\} \cos(\alpha + \beta) \\
&= 2 - 2 \cos \alpha \cos \beta \cos(\alpha + \beta)
\end{aligned}$$

よって  $\sin^2 \alpha + \sin^2 \beta + \sin^2(\alpha + \beta) + 2 \cos \alpha \cos \beta \cos(\alpha + \beta) = 2$

$$(2) \quad a = \log_{\frac{1}{4}} 5 = -\frac{1}{2} \log_2 5, \quad b = 2 \log_{\frac{1}{2}} \sqrt{5} = -\log_2 5$$

$2^{ac} = 5$  より  $ac = \log_2 5$  これと上の第1式から  $c = -2$

ゆえに  $a = \log_2 \frac{1}{\sqrt{5}}, \quad b = \log_2 \frac{1}{5}, \quad c = \log_2 \frac{1}{4}, \quad \frac{1}{5} < \frac{1}{4} < \frac{1}{\sqrt{5}}$

底2は1より大きいから  $b < c < a$

$$\boxed{10} \quad (1) \quad f(0) = c, \quad f(1) = a + b + c, \quad f(2) = 4a + 2b + c \text{ であるから}$$

$$2a = f(0) - 2f(1) + f(2), \quad 2b = -3f(0) + 4f(1) - f(2)$$

$f(0), f(1), f(2)$  はいずれも整数であるから,  $2a, 2b$  はともに整数である.

$$(2) \quad (i) \quad n \text{ が偶数のとき, } n = 2m \text{ とおくと } (m \text{ は整数})$$

$$f(n) = f(2m) = a(2m)^2 + b(2m) + c = 2a \cdot m^2 + 2b \cdot m + c$$

(1)の結果から,  $2a, 2b, c$  は整数であるから,  $f(n)$  は整数.

$$(ii) \quad n \text{ が奇数のとき, } n = 2m + 1 \text{ とおくと } (m \text{ は整数})$$

$$\begin{aligned}
f(n) &= f(2m + 1) = a(2m + 1)^2 + b(2m + 1) + c \\
&= 2a(2m^2 + 2m) + 2b \cdot m + a + b + c \\
&= 2a(2m^2 + 2m) + 2b \cdot m + f(0)
\end{aligned}$$

同様に,  $2a, 2b, f(0)$  は整数であるから,  $f(n)$  は整数.

別解  $f(n + 1) - 2f(n) + f(n - 1) = 2a$  より,  $2a, f(0), f(1)$  が整数であるから, すべての整数  $n$  について,  $f(n)$  は整数となる.

11 (1)  $\triangle ADC$  と直線 PE について, メネラウスの定理を適用すると

$$\frac{AP}{PD} \cdot \frac{DB}{BC} \cdot \frac{CE}{EA} = 1 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{AP}{PD} \cdot \frac{m}{m+n} \cdot \frac{m}{n} = 1$$

$AP : PD = n(m+n) : m^2 \cdots \textcircled{1}$  であるから

$$\begin{aligned} \overrightarrow{AP} &= \frac{n(m+n)}{m^2+mn+n^2} \overrightarrow{AD} = \frac{n(m+n)}{m^2+mn+n^2} \cdot \frac{n\overrightarrow{AB} + m\overrightarrow{AC}}{m+n} \\ &= \frac{n}{m^2+mn+n^2} (n\overrightarrow{AB} + m\overrightarrow{AC}) \end{aligned}$$

A, B, C, P, Q, R の位置ベクトルをそれぞれ  $\vec{a}, \vec{b}, \vec{c}, \vec{p}, \vec{q}, \vec{r}$  とすると

$$\begin{aligned} \vec{p} - \vec{a} &= \frac{n}{m^2+mn+n^2} \{n(\vec{b} - \vec{a}) + m(\vec{c} - \vec{a})\} \\ \vec{p} &= \frac{m^2\vec{a} + n^2\vec{b} + mn\vec{c}}{m^2+mn+n^2} \end{aligned}$$

A, B, C と P, Q, R の対称性により

$$\vec{q} = \frac{m^2\vec{b} + n^2\vec{c} + mn\vec{a}}{m^2+mn+n^2}, \quad \vec{r} = \frac{m^2\vec{c} + n^2\vec{a} + mn\vec{b}}{m^2+mn+n^2}$$

$$\begin{aligned} \text{ゆえに} \quad \overrightarrow{RP} &= \frac{m^2\overrightarrow{CA} + n^2\overrightarrow{AB} + mn\overrightarrow{BC}}{m^2+mn+n^2} \\ &= \frac{-m^2\overrightarrow{AC} + n^2\overrightarrow{AB} + mn(\overrightarrow{AC} - \overrightarrow{AB})}{m^2+mn+n^2} \\ &= \frac{n-m}{m^2+mn+n^2} (n\overrightarrow{AB} + m\overrightarrow{AC}) = \frac{n^2-m^2}{m^2+mn+n^2} \overrightarrow{AD} \quad \cdots \textcircled{2} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{同様に} \quad \overrightarrow{PQ} &= \frac{n-m}{m^2+mn+n^2} (n\overrightarrow{BC} + m\overrightarrow{BA}) = \frac{n^2-m^2}{m^2+mn+n^2} \overrightarrow{BE} \\ \overrightarrow{QR} &= \frac{n-m}{m^2+mn+n^2} (n\overrightarrow{CA} + m\overrightarrow{CB}) = \frac{n^2-m^2}{m^2+mn+n^2} \overrightarrow{CF} \end{aligned}$$

このとき,  $|\overrightarrow{AD}| = |\overrightarrow{BE}| = |\overrightarrow{CF}|$  であるから

$$|\overrightarrow{RP}| = |\overrightarrow{PQ}| = |\overrightarrow{QR}| \quad \text{よって} \quad \triangle PQR \text{ は正三角形}$$

$$(2) \textcircled{1} \text{ より} \quad \frac{AP}{AD} = \frac{n(m+n)}{m^2+mn+n^2}$$

$$\textcircled{2} \text{ より} \quad \frac{RP}{AD} = \frac{n^2-m^2}{m^2+mn+n^2}$$

$$\frac{AR}{AD} = \frac{AP}{AD} - \frac{RP}{AD} = \frac{m(m+n)}{m^2+mn+n^2} \quad \text{よって} \quad AR : AP = m : n$$

12 (1) 漸化式  $a_{n+1} = \frac{1}{2 - a_n}$  より

$$a_2 = \frac{1}{2 - a_1} = \frac{1}{2 - \frac{q}{p}} = \frac{p}{2p - q},$$

$$a_3 = \frac{1}{2 - a_2} = \frac{1}{2 - \frac{p}{2p - q}} = \frac{2p - q}{3p - 2q},$$

$$a_4 = \frac{1}{2 - a_3} = \frac{1}{2 - \frac{2p - q}{3p - 2q}} = \frac{3p - 2q}{4p - 3q}$$

(2) (1) の結果から

$$a_n = \frac{(n-1)p - (n-2)q}{np - (n-1)q} \quad \dots (*)$$

と推定される .

[1]  $n = 1$  のとき ,  $a_1 = \frac{q}{p}$  となり , (\*) は成り立つ .

[2]  $n = k$  のとき

$$a_k = \frac{(k-1)p - (k-2)q}{kp - (k-1)q}$$

が成り立つと仮定すると

$$a_{k+1} = \frac{1}{2 - a_k} = \frac{1}{2 - \frac{(k-1)p - (k-2)q}{kp - (k-1)q}} = \frac{kp - (k-1)q}{(k+1)p - kq}$$

よって ,  $n = k + 1$  のときも (\*) は成り立つ .

[1] , [2] より , すべての自然数  $n$  について (\*) は成り立つ .

補足 与えられた漸化式の特徴方程式  $x = \frac{1}{2 - x}$  を解くと  $x = 1$

$$a_{n+1} - 1 = \frac{1}{2 - a_n} - 1 = \frac{a_n - 1}{2 - a_n} \quad \text{ゆえに} \quad \frac{1}{a_{n+1} - 1} = \frac{1}{a_n - 1} - 1$$

したがって ,  $\left\{ \frac{1}{a_n - 1} \right\}$  は初項  $\frac{1}{a_1 - 1}$  , 公差  $-1$  の等差数列であるから

$$\frac{1}{a_n - 1} = \frac{1}{a_1 - 1} - (n-1) = \frac{1}{\frac{q}{p} - 1} - n + 1 = \frac{np - (n-1)q}{q - p}$$

$$\text{ゆえに} \quad a_n - 1 = \frac{q - p}{np - (n-1)q} \quad \text{よって} \quad a_n = \frac{(n-1)p - (n-2)q}{np - (n-1)q}$$